

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2024 年 4 月 18 日開催分)

開催年月日 : 2024 年 4 月 18 日(木) 11:00~13:30

開催場所 : (株)WOWOW プラス Space17C

委員の出席 : 番組審議員 7 名

WOWOW プラス 7 名

出席者

[審議員] 青木真弥、池ノ辺直子、音好宏、高寺成紀、富澤一誠、  
村上典吏子、湯浅正敏 (以上 50 音順、敬称略)

株式会社 WOWOW プラス

大熊和彦、宮澤辰之、松田健吾、青木昭、高木慶、  
森平伸雄 (記録撮影)、渋谷明子(書記)

- 議題 :
- (1) 「WOWOW プラス」の連放送基準の改定案の諮問並びに答申
  - (2) 2024 年 1 月~3 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について
  - (3) 「WOWOW プラス」の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項 : 2024 年 1 月~3 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について

(株)WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項 : [審議番組]

「災害・大事故時の編成対応について」

<審議意図>

2024 年 1 月 1 日に能登地震、1 月 2 日に航空機衝突事故が発生。「WOWOW プラス」では、地震や津波などの災害描写を伴う SF 映画『フィフス・ウェイブ』を 1 月 4 日に編成していたが、チャンネル独自の判断基準に照らし合わせ、放送を自粛する必要はないと判断し、本編直前に、地震や津波の描写がある旨をテロップで明示したうえで、予定通り放送した。

今後も当チャンネルが自身で判断することを前提とした上で、今回の災害・大事故の発生時の対応について、番組審議委員の皆さまのご意見を伺った。

※事前に『フィフス・ウェイブ』の VTR を送付し、ご視聴いただいた上で、審議を行った。

審議内容 : ■審議員意見

- ・番組を視聴できる所は安全が確保されていると想定される。注意喚起は流れており、テロップを見たうえで、番組を見ようと思う人もいる。有料放送としては、今回の対応で問題ないと思う。

- ・難しい問題。エンターテインメントの視聴・鑑賞の判断は、誰がその判断を行うのが大切。放送しない方向ではなく、きちんと内容を分かっている人が、判断をして決めるのが大切。その時に確固たる意志と責任をもって放映していくことが大切になる。
- ・考えざるを得ない、難しい話になっている。今は、放送の中止や再開を、誰が決めているのか分からない。何かガイドラインを作ることも大切ではないか。前代未聞の事態を前に、先送りを止めてきちんと議論をしていくことが大切。
- ・有料放送、基幹放送の事業者として主体的に判断をすればよい。有料放送は、加入者の意志でサービスを楽しんでおり、そのことを踏まえ、事業者がそのときどきにに応じて独自に判断をすればよく、内容や編成に手を加える必要はない。テロップを入れることがエクスキューズになるが、それを入れる事が良いことなのか。エクスキューズを入れることで、判断を放棄することに繋がる可能性もある。
- ・作品の内容などに鑑みて局が判断すべきだと考える。当該作品は地震の被害の描写も少なく、原因も異星人の侵略という非日常的なものだったので、放送への判断は問題なかったと思う。事件・事故、災害は突発的に起きるので、今後はテロップによる視聴者への注意喚起が浸透すると望ましい。
- ・画一的に決めることでなく、都度、事業者が判断すればよい。特に有料放送であるなら、視聴者はお金を払っている人たちなので、放送することに問題ない。議論になった時に、真摯に対応することが信頼に繋がる。正解があるものではないか、編成の責任で決めていくことで間違いない。
- ・これだけTVで、災害や戦争が日常化している時代の中で、いやが応でもTVをつけるとそういうシーンが出てくる。有料放送に限ることなく、TVはいったいどう対応すべきなのか。今回のWOWOWプラスの対応は、安易な形で放送を中止、差し替えをすることなく自らの判断で放映したので問題ない。どういう体制で、どのようなプロセスを経て判断をしたのか、透明性をもって明言できるからだと思う。

---

連絡事項： 次回番組審議会は、2024年7月18日(木)午前11時(予定)より開催。

以上